

声 明

柏崎刈羽原発 6 号機再稼働に抗議し、停止を求める

東京電力は 1 月 21 日に、柏崎刈羽原発 6 号機の再稼働を実施。福島第 1 原発の廃炉作業や避難住民の帰還が道半ばのまま、事故を起こした東京電力が原発を稼働させる事に抗議し、稼働の停止を求める。

福島では、復興、復旧が道半ばであり、故郷に帰還したくても帰れない住民、廃炉作業が進まない現状や除染土、汚染水などの核のゴミ問題などの多くが未解決である。東京電力は「最大の使命は福島への責任を果たす」と言っているが、事故の清算を柏崎刈羽原発の再稼働で行う事は大きな間違いである。新潟、福島の県民、市民は納得していない。

花角新潟県知事の原発再稼働容認発言も、政府の第 7 次エネルギー基本計画による「原発の最大限活用」方針を優先させた為であり、市民の声を無視している。新潟市民からは「東京電力による運転が心配」との不安な声が根強く、東京電力に原発を動かす資格はない。

日本国内で、原発が停止している間に、太陽光などの地産地消の再生可能エネルギーが普及してきており、酷暑であった 2025 年夏も電力不足になることなく、原発を稼働させる理由はない。

福島第一原発事故から 15 年を迎えようとしている今も被害は続いている。いまだに多くの人びとが故郷へ戻れず、生業、コミュニティーも壊されたままであり、補償も十分に行われていない。この被害から目を背け、事故の教訓を忘却し原発回帰することは許されない。

私たち原発をなくす全国連絡会は、東京電力 柏崎刈羽原発 6 号機再稼働に抗議し、稼働の停止を求めるとともに、すべての原発の廃炉と再生可能エネルギーへの転換を求めて闘い続ける決意である。

2026 年 1 月 22 日

原発をなくす全国連絡会